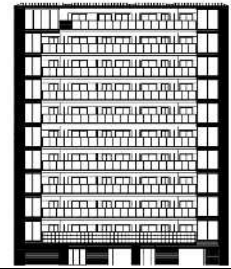


# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)高辻堀川町計画	階数	地上11F
建設地	京都府京都市下京区西堀川通高辻下る高辻堀川町367番 他	構造	RC造
用途地域	商業地域, 防火地域, 沿道型美観地区	平均居住人員	70 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店, 集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2019年11月15日
敷地面積	307.68 m <sup>2</sup>	作成者	一般建築士事務所 株式会社 東洋設計事務所 吉田 茂博
建築面積	265.02 m <sup>2</sup>	確認日	2019年11月15日
延床面積	2,436.47 m <sup>2</sup>	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.1</b> ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>②建築物の取組み 96%</p> <p>③上記+②以外の 83%</p> <p>④上記+ 83%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 3.0</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 3.2</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.1</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 2.6</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 3.2</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 3.2</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 3.3</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>省水型機器の採用やLED照明の計画、太陽光パネルの設置など、環境への配慮がなされており、十分な自然換気機能や高度通信設備など、居住者の快適性の高い設計になっている</p>	<p><b>その他</b></p> <p>特に無し</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>居室内は十分な自然換気ができ、内装材はほぼ全面にF☆☆☆☆を使用</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>耐用年数の高い外装材・内装材・配管材を使用し、各居室にCat.5eの高度通信設備を採用している</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>防犯カメラの設置で住民に安全を提供し、景観認定の取得で地域の景観の配慮がなされている</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>BEIm=0.94 LED照明の採用</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>躯体と仕上げ材が容易に分別可能であり、GWP値の低い断熱材を使用している</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出率 83%</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される